

第6章 今後の方針

6.1. ワンド、粗朶消波工に関する今後の方針

6.1.1 ワンド

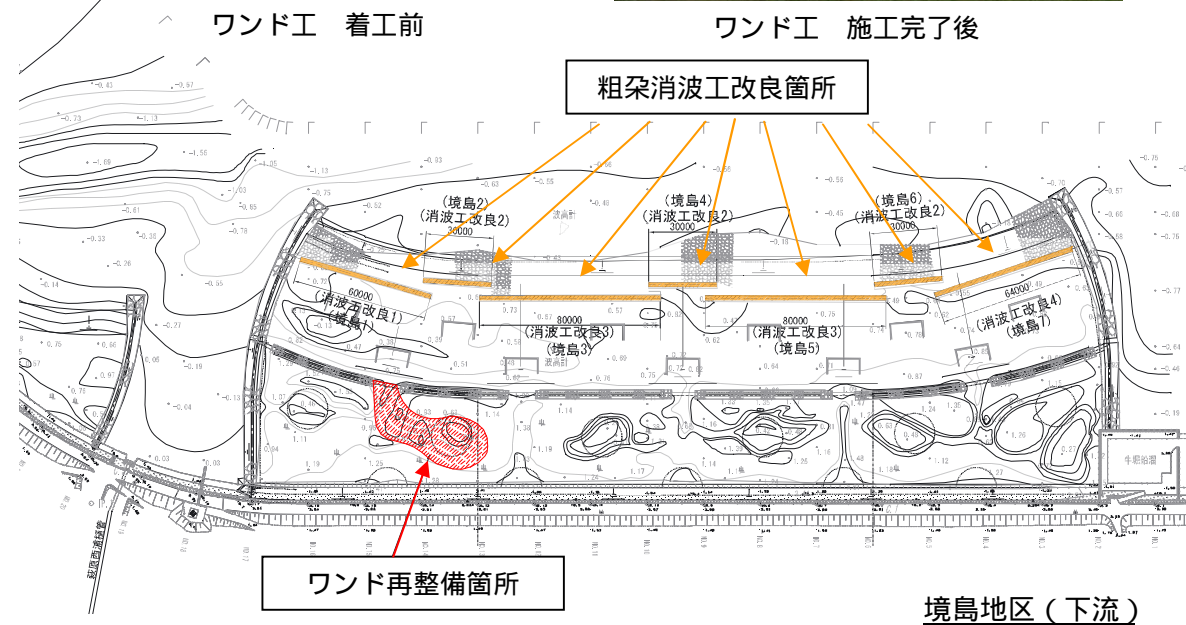
(1) 試験的取り組み

境島において整備したワンドでは、一時的に沈水植物が再生したが次第に抽水植物に被陰され減退した。また一方で抽水植物のリターの堆積とともにワンド自体が浅くなる傾向があり、ますます沈水植物の生育場として適さない環境となりつつある。

そこで、境島において整備したワンドを、平成19年3~5月に、より深く掘削し再整備を行った。

(2) 今後の方針

再整備したワンドについて、沈水植物、抽水植物の生育状況、地形変化、水質及び底質等について、過去のモニタリング結果と比較しながら今後もモニタリングを行っていく。



境島地区(下流)

6.1.2 粗朶消波工

(1) 試験的取り組み

消波が必要とされる場合においては、素材の特性や維持管理面を踏まえ、必要な機能を満たすような構造を検討する。

試験的に境島地区の粗朶消波工について改良工事を行った。改良工事は、内蔵粗朶の流出等や杭の損傷により、消波機能が低下したために、構造杭を必要に応じて更新するとともに、既存粗朶工に割栗石を積載する等したものである。

(2) 今後の方針

消波機能及び背後地形の維持に関して過去のモニタリング結果とも比較しながらモニタリングを行っていく。

既存の粗朶消波工については、現地の波浪状況や植生の保全・再生状況等を総合的に判断して、補修や撤去等の検討を実施し対応する。

